

h143e

ISSN 0913-5154

平成 3 年度

川崎市衛生研究所年報

(第 27 号)

川崎市衛生研究所

(1991)

は　じ　め　に

平成3年度の当研究所の現況と事業実績のあらましについてとりまとめ、年報27号としてお届けいたします。ご高覧のうえ、ご叱正、ご教示いただければ幸いです。

本年はソ連邦の崩壊など世界の情勢が大きく変化いたしました。

衛生研究所におきましては地研の「4つの柱」をかかげ、公衆衛生行政の科学的技術的中核としての役割を果たすため、所員一人一人の研鑽の積み重ねによって、市民の健康と福祉に貢献するように努力しておりますが、科学技術の進歩はめざましく、また、国際交流が盛んになればなるほど新しい問題が次々と発生し、これに対応できるよう技術の習得および機器の整備に追われておりますが、試験結果が増大し、複雑多岐になるほど調査研究分野が手薄になってくるのが実情であります。本市におきましては、21世紀を展望した総合的、先見的な新しい調査研究ができる総合研究所構想について、現在、庁内の関係各局と検討しているところであります。

今後とも格段のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い致します。

平成5年　1月

所長　吉　澤　秀　明

目 次

I 概 要	1
1. 沿 革	1
2. 機 構	3
(1) 組 織	3
(2) 事 務 分 掌	3
3. 人 員 配 置	4
4. 予 算 及 び 決 算	4
(1) 歳 入	4
(2) 歳 出	5
5. 行 事	6
(1) 学 会	6
(2) 講習会及び研修会	7
(3) 職 場 研 修	8
(4) 会 議	9
(5) 指 導 訓 練	12
(6) 講 師 派 遣	12
II 業 務	13
1. 微生物検査担当	13
2. 理化学検査担当	32
III 試 験 検 査	52
1. 月 別 検 査 件 数	52
2. 依 頼 別 検 査 件 数	58
3. 項 目 別 検 査 件 数	60
食品別検査項目内訳	70
水質別検査項目内訳	74
IV 調 産 研 究	76
1. 調 査 研 究 報 告	76
2. 学 会 発 表	121
3. 論 文 発 表	124
V 職 員 名 簿	125
VI 人 事 記 録	126

I 概 要

1. 沿 革

年 月	事 項
昭和 27. 1	川崎市条例第 2 号（昭和 27 年 1 月 9 日）により公衆衛生の向上及び増進に寄与するため川崎市立衛生試験所設置される。 庁舎は、川崎市砂子 1 丁目 7 番地 川崎市中央保健所 2 階の一部を使用する。
27. 2	川崎市事務分掌条例（昭和 22 年川崎市条例第 16 号）に基づく事務分掌規則により次の係が設置される。 庶 務 係 試 験 係
36. 7	本市に 4 カ所の原子炉関係施設が設置され、市民からの強い要望にこたえて、川崎市新川通り 70 番地 川崎市立川崎病院構内に放射能測定室を設置し、業務を開始する。
36. 10	川崎市事務分掌規則の改正により次の係が設置される。 試験係が廃止され、新たに、試験第 1 係、試験第 2 係となる。
37. 9	川崎市中央保健所庁舎改築と同時に同庁舎 4 階に移転する。
40. 4	川崎市事務分掌規則の改正により次の係が設置される。 試験第 1 係、試験第 2 係が廃止され、 微 生 物 係・臨 床 検 査 係・理化学環境検査係
42. 7	川崎市事務分掌規則の改正により次の係が設置される。 理化学環境検査係が廃止され、 食 品 化 学 係・環 境 検 査 係
44. 4	川崎市立川崎病院内構内に設置の放射能測定室を閉鎖し、環境検査係内に移す。
44. 9	川崎市大島 5 丁目 5 番地 2（元川崎市交通局トロリーバス車庫跡地）に庁舎新築起工。
45. 5	新庁舎竣工。
45. 6	川崎市条例第 2 号が改正され、川崎市衛生研究所条例（昭和 45 年 3 月 31 日条例第 14 号）が新たに施行される。（名称変更と設置場所の変更）
45. 6	川崎市事務分掌規則の改正により課制を施行、2 課 7 係が設置される。

年	月	事	項
		微生物課	- 庶務係 - 細菌検査係 - 臨床検査係 - ウイルス検査係
		理化学課	- 食品検査係 - 水質検査係 - 環境検査係
昭和	45. 6	川崎市衛生研究所新庁舎の開庁式挙行。	
	46. 4	川崎市衛生研究所条例第6条に基づく手数料一部追加により改正，施行される。（昭和46年3月23日条例第6号）	
	46. 8	川崎市衛生研究所放射線障害予防規程（昭和46年7月29日訓令第14号）が施行される。	
	46. 10	川崎市事務分掌規則の改正（昭和46年10月15日規則第71号）により，1室，2課6係となる。 同時に川崎市役所機構改革により公害局公害研究所が新設され，庁舎共同使用となる。	
	47. 4	川崎市が指定都市に指定される。（地方自治法第252条の19第1項）	
	48. 12	公害研究所庁舎新設に伴い移転。	
	50. 4	川崎市衛生研究所条例を一部改正施行される。（昭和50年4月1日条例第6号）	
	50. 4	川崎市衛生研究所条例施行規則を全面改正施行される。（昭和50年4月1日規則第21号）	
	50. 7	4階に実験室を増築。	
	61. 10	川崎市事務分掌規則等の一部改正により，課・係制を廃止し，主幹・主査制を導入する。	
平成	元. 3	1階に安全実験室を設備。	
	3. 3	電子顕微鏡を設置。	
	4. 3	3階に有機溶媒排気装置を設備。	
	4. 4	川崎市事務分掌規則等の一部改正により，事務分掌の内容の変更。	

施設及び建物

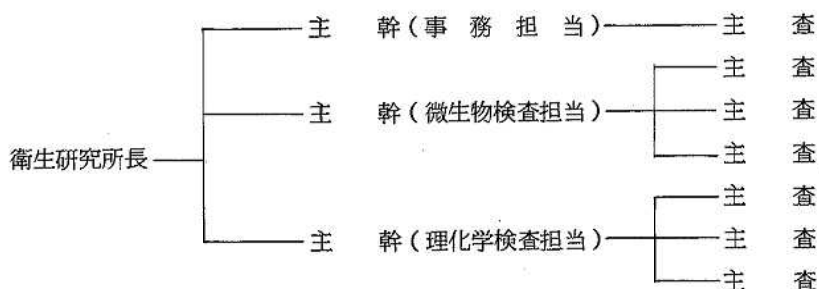
- (1) 敷 地 1,652.89 m^2 (500坪)
 (2) 建 物 鉄筋コンクリート造 4階建 延面積 2,242.60 m^2

階 別 内 訳

階 別	床 面 積	屋 外 階 段	計
1 階	642.50 m^2	4.95 m^2	647.45 m^2
2 階	630.00	23.00	653.00
3 階	630.00	21.85	651.85
4 階	290.30	—	290.30
計	2,192.80	49.80	2,242.60

2. 機 構

(1) 組 織



(2) 事 務 分 掌

川崎市事業所事務分掌規則(昭和51年4月30日規則第39号)第3条 事業所の事務分掌は、次のとおりとする。

衛生研究所

1. 所の庶務に関すること。
2. 所の維持管理に関すること。
3. 試験検査の企画、調査及び統計に関すること。
4. 公衆衛生従事者の技術研修の企画実施に関すること。
5. 検査容器の消毒及び洗浄に関すること。
6. 微生物学的試験検査及び調査研究に関すること。
7. 衛生動物の試験検査及び調査研究に関すること。
8. 理化学的試験検査及び調査研究に関すること。
9. その他公衆衛生上必要な試験検査及び調査研究に関すること。

3. 人 員 配 置

(平成4年4月1日現在)

職 種 別 担当部門別		総 数	一 般 事 務 職	獣 医 師	薬 剤 師	栄 養 士	臨 床 検 査 技 師	化 学 職	自 動 車 運 転 手	用 務 員
総 数		39	5	4	8	1	11	8	1	1
所 長		1	—	—	1	—	—	—	—	—
事担 務当	主 幹	1	1	—	—	—	—	—	—	—
	事 務 ほか	6	4	—	—	—	—	—	1	1
微生物検査担当	主 幹	2	—	1	—	1	—	—	—	—
	細菌検査部門	6	—	1	1	—	4	—	—	—
	臨床検査部門	4	—	—	—	—	3	1	—	—
	ウイルス検査部門	3	—	1	—	—	2	—	—	—
理化学検査担当	主 幹	1	—	—	—	—	1	—	—	—
	食品検査部門	5	—	—	4	—	—	1	—	—
	水質検査部門	5	—	—	2	—	—	3	—	—
	環境検査部門	5	—	1	—	—	1	3	—	—

4. 予算及び決算(平成3年度)

(1) 歳 入

(単位:円)

款 項 目	節	予 算 額	決 算 額
使用料及手数料			
手 数 料			
衛 生 手 数 料	衛生検査手数料	53,122,000	49,927,740
	証明閲覧手数料	92,000	18,800

(2) 歳 出

(単位:円)

款 項 目	節	予 算 額	決 算 額
衛 生 費			
保健衛生施設費			
衛生研究所費		103,183,000	99,945,398
	報 酬	357,000	356,400
	報 償 費	66,000	66,000
	需 用 費	50,591,000	49,448,662
	消 耗 品 費	30,732,000	30,598,420
	(調査研究費)	(2,950,000)	(2,923,563)
	燃 料 費	1,208,000	955,682
	食 糧 費	680,000	658,447
	印 刷 製 本 費	600,000	721,941
	光 熱 水 費	15,701,000	14,825,608
	修 繕 料	1,670,000	1,688,564
	役 務 費	2,025,000	1,945,716
	郵 便 料	107,000	92,944
	電 話 料	555,000	576,095
	手 数 料	1,363,000	1,276,680
	委 託 料	6,841,000	6,606,589
	使用料及び賃借料	20,282,000	19,808,030
	備 品 購 入 費	22,562,000	21,308,198
	(調査研究費)	(50,000)	(48,265)
	負担金補助及び交付金	459,000	405,800
当番市関係再掲		1,121,000	957,053
	需 用 費	685,000	654,051
	役 務 費	7,000	6,944
	使用料及び賃借料	363,000	230,058
	負担金補助及び交付金	66,000	66,000

5. 行 事

(1) 学 会

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
3. 4. 1 ～ 3	第 4 3 回日本衛生動物学会	神戸国際会議場	佐藤
4. 26 ～27	第 6 5 回日本感染症学会	大阪国際交流センター	小川(佐)
5. 15 ～17	日本食品衛生学会 第 6 1 回学術講演会	中央区中央会館	森, 小川(博), 田 中, 藤井, 森脇
5. 30	川崎市公衆衛生研究発表会	いさご会館	吉澤他
6. 5 ～ 6	第 3 2 回日本臨床ウイルス学会	笹川記念館	春山, 福田
6. 12 ～13	第 6 5 回日本細菌学会	野口記念会館	小川(佐), 小嶋
6. 20 ～21	関東甲信静地研ウイルス研究会	いせやま会館	春山
7. 18 ～19	衛生微生物技術協議会 (第 1 2 回研究会)	兵庫県民会館	大久保, 春山, 飯塚
9. 6 ～ 7	第 1 8 回カビ毒研究連絡会	千葉県白子町松涛荘	森
10. 8 ～ 9	全国衛生化学技術者協議会	広島県民文化センター	小川(博)
10. 16 ～17	第 5 0 回日本公衆衛生学会	岩手県民会館	小川(佐), 佐藤
10. 17 ～18	第 4 0 回日本感染症学会東日本地方会	札幌市教育文化会館	春山
10. 25	衛生動物東日本支部大会	筑波大学	佐藤
11. 12 ～14	U J N R 国際シンポジウム	東邦生命ホール	森, 小川(佐)
11. 14 ～15	第 1 2 回食品微生物学会	万国博ホール	岡田
11. 15	第 3 回神奈川県衛生研究所研究発表会	県衛生研究所	福田
11. 20	第 3 7 回神奈川県公衆衛生学会	県歯科保健 総合センター	松本, 鈴木(博), 大友, 小川(佐), 須藤, 春山, 福 田, 吉澤

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
4. 1. 31 ~2. 1	第5回公衆衛生情報研究協議会	国立公衆衛生院	大久保, 松本

(2) 講習会及び研修会

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
3. 4. 18	ダイオエクスセミナー	コクヨホール	林(幹)
5. 21	日本水質汚濁研究会 関東支部講演会	横浜市社会 福祉センター	林(幹), 千田
5. 27	佐々学受賞記念シンポジウム	学士会館	佐藤
6. 13	G Cセミナー	県労働福祉センター	林(幹)
6. 26	神奈川県衛生研究所技術研修	県衛生研究所	鈴木(壮), 飯塚
7. 5	「細菌の病原性とその分子遺伝学」 研究会	北里研究所	小川(俊)
7. 8 ~10	電子顕微鏡講習会	勝田市テクノリサーチ センター	福田
8. 27	公衆衛生関係研修会	荏原製作所(藤沢)	橋本
9. 24	〃	エタンドライセンター	林(幹)
11. 15	第3回神奈川県衛生研究所研究発表会	県衛生研究所	小嶋, 柳堀, 鈴木(幹)
11. 18	放射線安全管理講習会	日本教育会館	竹澤
11. 25 ~26	腸管出血性大腸菌迅速検査法技術研修	国立予防衛生研究所 (村山分室)	小嶋
11. 28	第14回ビルの衛生管理に関する 研究会	横浜市教育文化ホール	入口
11. 29	世界のエイズデー「かながわ」	いさご会館	大久保, 岡田, 柳堀
12. 4 ~ 5	第20回水環境学会セミナー	北とびあ	林(幹), 入口
4. 1. 17	第4回衛生検査技術専門研修	県衛生研究所	小川(俊), 柳堀
1. 30 ~31	希少感染症診断技術研修会	医科学研究所	飯塚, 鏡木
2. 5	監視員研修会(衛生害虫)	県保健教育センター	佐藤

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
4. 2. 13	第2回予研シンポジウム (肝炎ウイルス)	ヤクトホール	鈴木(壮), 鎗木
2. 17	環境衛生関係職員研修会 (ハチの駆除法)	いさご会館	佐藤, 林(幸)
2. 20 ～21	関東甲信静地研ブロック細菌研究部会	山梨県ニュー芙蓉	大久保, 岡田, 小川(俊)
2. 25	職場集合研修	市公害研究所	橋本, 林(幸)
2. 27 ～28	H I VのP C R検査法	県衛生研究所	鈴木(壮)
2. 28	県主催食品衛生監視員研修会	県保健教育センター	藤井
2. 28	第5回衛生検査技術専門研修	県衛生研究所	小嶋
3. 2	食品衛生監視員研修会	市産業振興会館	森, 須藤
3. 4	北部市場業務研修会	いさご会館	大久保, 柳堀, 森, 小川(幸), 田 中, 藤井, 森脇
3. 4 ～ 5	イオンクロマトグラフ分析講習会	共立薬科大学	林(幸)
3. 6	県内地研連絡協議会 微生物情報部会	県衛生研究所	佐久間, 大久保, 岡田
3. 7	精度管理研修会	県衛生研究所	鈴木(壮)
3. 12	公衆衛生関係職員研修会	いさご会館	林(幸)
3. 13	食品衛生監視員研修会	いさご会館	大久保, 小川(俊), 小嶋, 森, 小川 (幸), 田中, 藤井, 森脇
3. 13	第6回衛生検査専門技術研修	県衛生研究所	入口

(3) 職 場 研 修

年 月 日	名 称	講 師 名	場 所
3. 11. 27	出血性大腸菌(O157:H7)の疫学	伊 藤 武	いさご会館
4. 2. 28	変異原性試験について	森 康 明	市衛生研究所
2. 28	高速液体クロマトグラフを用いた 香粧品の分析	木 島 敬 二	市衛生研究所

(4) 会 議

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
3. 5. 9	平成3年度地研全国協議会 第1回理事会	麴 町 会 館	吉澤
5. 13	市公衆衛生研究発表会理事会	川崎保健所	吉澤
5. 14	ユスリカ専門部会	法 萬 会 館	佐藤
5. 20	市環境科学総合研究システム 連絡協議会	いさご会館	吉澤
5. 21	市結核、感染症サーベランス委員会 平成3年度第1回情報解析小委員会	川崎休日急患診療所	吉澤, 大久保, 春山
5. 22	川崎区行政連絡調整会議	川崎区役所	鳥海
6. 5	川崎区選出市議団事業説明	川崎区役所	吉澤
6. 11	平成3年度地研全国協議会臨時総会	国際研究交流会館	吉澤
6. 12	全国地研所長会議	厚 生 省	吉澤, 鳥海
6. 19	市環境科学総合研究システム 連絡協議会	いさご会館	吉澤
6. 21	関東甲信越花粉症研究会	気 象 庁	佐藤
6. 24	関東甲信静地研会議	な か 川	吉澤, 鳥海他
6. 25	神奈川の急性伝染病 (平成2年)第1回編集会議	神奈川自治会館	大久保
7. 11	平成3年度第45回 地研関東甲信静支部総会	川崎グランドホテル	吉澤, 鳥海他
7. 12	県公衆衛生協会平成3年度第1回 学術部会	ワークピア横浜	吉澤
7. 16	市結核、感染症サーベランス委員会 第2回情報解析小委員会	川崎休日急患診療所	吉澤, 大久保, 春山
7. 16	ねずみ駆除協議会	品川区立総合区民会館	佐藤
7. 18 ～19	衛生微生物協議会	兵庫県民会館	大久保, 春山, 飯塚
7. 22	公衆衛生協会川崎中央支部総会	川崎保健所	鳥海
8. 7	市環境科学総合研究システム連絡 協議会	いさご会館	吉澤
8. 7	害虫駆除懇談会	東京郵便貯金会館	佐藤

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
3. 8. 19	第3回川崎市有機塩素系物質対策に関する庁内連絡会議	市本庁舎会議室	千田
8. 29	市環境科学総合研究システム連絡協議会	労働会館	吉澤
9. 5	平成3年度指定都市衛研所長会議	仙 台 市	吉澤
9. 17	平成3年度第1回市結核、感染症サーベランス委員会	中原休日急患診療所	吉澤、佐久間、大久保、春山
9. 17	市結核、感染症サーベランス委員会第3回情報解析小委員会	中原休日急患診療所	吉澤、佐久間、大久保、春山
9. 20	県公衆衛生協会 平成3年度第2回学術部会	横浜開港記念会館	吉澤
9. 25	平成3年度 地研全国協議会第2回理事会	東 海 大 学	吉澤
10. 9	神奈川県 of 急性伝染病 (平成2年)第2回編集会議	県衛生研究所	大久保
10. 9	かながわ研究交流推進協議会設立総会	横浜ロイヤルホール	吉澤、鳥海
10. 11	市伝染病対策協議会	中原区役所	吉澤、佐久間、大久保、春山
10. 15	第42回地研全国協議会総会	盛 岡 市	吉澤
11. 8	市環境科学総合研究システム連絡会議	いさご会館	吉澤、大久保
11. 12	環境科学総合研究システム基本構想策定に関する調査第1回委員会	横浜ホテルリッチ	吉澤
11. 26	市結核、感染症サーベランス委員会 第4回情報解析小委員会	川崎休日急患診療所	吉澤、大久保、春山
12. 6	ねずみ駆除協議会	霞 山 会 館	佐藤
12. 6	県三市微生物協議会	県衛生研究所	鈴木(壮)
12. 11	平成3年度県及び政令三市 衛生研究所長会議	県衛生研究所	吉澤、鳥海
12. 13	関東甲信越花粉症研究会	海事センタービル	佐藤
12. 19	市環境科学総合研究システム連絡会議	いさご会館	吉澤、大久保
12. 20	第1回環境科学総合研究システム 小委員会	川崎保健所	鳥海、小川(健)、田中

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
3. 12. 25	平成3年度県公衆衛生協会理事会	県歯科保健センター	吉澤
12. 26	厚生科学研究事業会議	都市衛生研究所	大久保, 小川(㊄)
4. 1. 14	平成4年度市公衆衛生研究発表会 第1回運営委員会	ナース相談室	吉澤
1. 21	市結核, 感染症サーベランス委員会 第5回情報解析小委員会	川崎休日急患診療所	吉澤, 大久保, 春山
1. 23	県三市食品衛生部会	中原区役所	吉澤, 森, 小川 (㊄), 田中, 藤井, 森脇, 松本, 鈴木 明, 竹沢, 大友
1. 29	市環境科学総合研究システム連絡会議	パ レ ー ル	吉澤, 大久保
2. 12	職員B型肝炎対策委員会	いさご会館	吉澤
2. 14	地研全国協議会関東甲信静支部 理化学部会	県政総合センター	森, 田中, 藤井, 入口, 林(㊄)
2. 19	平成3年度第3回全国地研協議会 理事会	県衛生研究所	吉澤
2. 21	かながわ交流協会研究交流フォーラム	横浜国際平和会議場	鳥海
3. 2	全国家庭用品安全対策担当係長会議	厚 生 省	鈴木(㊄)
3. 6	市環境科学総合研究システム連絡会議	パ レ ー ル	吉澤, 大久保
3. 12	県三市環境衛生部会	横須賀市衛生試験所	橋本, 林(㊄), 鈴木 (㊄), 天野
3. 17	平成3年度第2回市結核, 感染症 サーベランス委員会	中原休日急患診療所	吉澤, 佐久間, 大久保, 春山
3. 17	市結核, 感染症サーベランス委員会 第6回情報解析小委員会	中原休日急患診療所	吉澤, 佐久間, 大久保, 春山
3. 23	厚生科学研究事業会議	東京ガーデンパレス	大久保, 小川(㊄)
3. 23	第4回環境科学総合研究システム 研究委員会	ハ ト ヤ	吉澤
3. 23	川崎市エイズ対策推進委員会	川崎保健所	吉澤

(5) 指導訓練

年 月 日	実 習 対 象 者	人 員	内 容
3. 4. 1 5 4. 2. 28	北里大学衛生部化学科	1 名	食品化学実習

(6) 講師派遣

年 月 日	名 称	講 師 名	依 頼 者
3. 4. 10 ～10. 21	微 生 物 (1 8 回)	大 久 保	川崎市医師会附属准看護婦学校
8. 16 ～17	夏休み親子歴史散歩 (湧水と水棲昆虫)	林 (幸)	宮 前 市 民 館
8. 25	第 1 3 回伝染病検査技術講習会	小 川 (功)	社団法人神奈川県臨床衛生検査技師会
4. 1. 16	特別講義 「DNAを中心とする新しい細菌同定法」 — 特にPCR法について	小 川 (功)	神奈川県立衛生短期大学

Ⅱ 業 務

1. 微生物検査担当

(1) 細菌検査部門

ア. 腸内細菌

（ア）業態者検便

業態者（給食従事者、食品取扱者、その他一般）の検便からの赤痢菌及びサルモネラの検出状況は表1に示すとおりである。

検査件数は30,090件であり、サルモネラ（SS寒天培地上で検出されたもの）は2件（0.007%）検出され、2血清型に型別された。

赤痢菌は検出されなかった。

（イ）医療機関依頼の下痢症患者からの病原菌検出状況

下痢症患者からの病原菌検出状況は表2に示すとおりである。検査件数836件中病原菌陽性件数は236件（28.2%）であり、その内訳は、赤痢菌1件（0.1%）、サルモネラ43件（5.1%）、腸管病原性大腸菌（EPEC）45件（5.4%）、毒素原性大腸菌（ETEC）11件（1.3%）、出血性大腸菌（VTEC）1件（0.1%）、エルシニア・エンテロコリチカ3件（0.4%）、腸炎ビブリオ19件（2.3%）、ビブリオ・ミミカス2件（0.2%）、ビブリオ・フルビアリス3件（0.4%）、ビブリオ・ファーニシイ1件（0.1%）、カンピロバクター・ジェジュニ120件（14.4%）、カンピロバクター・コリ1件（0.1%）、プレシオモナス・シゲロイデス7件（0.8%）、エロモナスspp 3件（0.4%）であり、カンピロバクター・ジェジュニが検出病原菌の50.8%を占めていた。組織侵入性大腸菌（EIEC）、コレラ菌01、コレラ菌non-01は検出されなかった。

同一患者から2～4菌種の病原菌による混合感染事例が24事例みられた。

（ウ）検疫通報及び汚染地域来航者からの病原菌検出状況

検疫通報及び汚染地域来航者からの病原菌検出状況は表3に示すとおりである。検査件数283件中病原菌陽性件数127件（44.9%）であり、その内訳は、赤痢菌3件（1.1%）、サルモネラ16件（5.7%）、EPEC20件（7.1%）、ETEC49件（17.3%）、腸炎ビブリオ14件（4.9%）、コレラ菌non-01 4件（1.4%）、ビブリオ・ファーニシ

表1. 業態者検便からの赤痢菌及びサルモネラの検出状況
（平成3年4月～4年3月）

年月	検査件数	病 原 菌	
		赤痢菌	サルモネラ
3. 4	2,480	-	-
5	2,419	-	1 (0.04)
6	3,427	-	-
7	2,611	-	-
8	2,050	-	-
9	2,682	-	1 (0.04)
10	2,548	-	-
11	2,396	-	-
12	2,465	-	-
4. 1	2,323	-	-
2	2,308	-	-
3	2,381	-	-
計	30,090	-	2 (0.007)

備考：（ ）内の数字は、検査件数に対する%を表す。

表 2. 下痢症患者からの病原菌検出状況（平成 3 年 4 月～4 年 3 月）

年 月	3 4	5	6	7	8	9	10	11	12	4 1	2	3	計
検査件数	65	67	73	91	83	97	59	61	62	67	58	53	836
陽性件数 (%)	18* (27.7)	15* (22.4)	19* (26.0)	32* (35.2)	35* (42.2)	27* (27.8)	19* (32.2)	25* (41.0)	11* (17.7)	11* (16.4)	13 (22.4)	11 (20.8)	236* (28.2)
赤痢菌	-	-	-	-	1* (1.2)	-	-	-	-	-	-	-	1* (0.1)
サルモネラ	-	3* (4.8)	2 (2.7)	7 (7.7)	12* (14.5)	2 (2.1)	8* (13.6)	8* (13.1)	-	-	1 (1.5)	-	43* (5.1)
EPEC	4* (6.2)	- 5* (7.5)	6* (8.2)	7 (7.7)	3* (3.6)	1 (1.0)	-	4* (6.6)	5* (8.1)	6 (9.0)	4 (6.9)	-	45* (5.4)
ETEC	-	-	2 (2.7)	2 (2.2)	2 (2.4)	2 (2.1)	1 (1.7)	1 (1.6)	-	-	-	1 (1.9)	11 (1.3)
VTEC	-	-	-	-	1 (1.2)	-	-	-	-	-	-	-	1 (0.1)
エンテロ・ エンテロコッカ	-	-	-	-	-	3 (3.1)	-	-	-	-	-	-	3 (0.4)
腸炎ビリオ	-	-	1* (1.4)	4* (4.4)	7 (8.4)	7* (7.2)	-	-	-	-	-	-	19* (2.3)
ビリオ・ミナ	-	-	-	1* (1.1)	-	1 (1.0)	-	-	-	-	-	-	2* (0.2)
ビリオ・ フレアリス	-	-	-	1* (1.1)	-	2 (2.1)	-	-	-	-	-	-	3* (0.4)
ビリオ・ ファニシイ	-	-	-	-	-	1* (1.0)	-	-	-	-	-	-	1* (0.1)
カンピロバクテ ラ・ジェジュニ	14* (21.5)	9* (13.4)	10* (13.7)	12 (13.2)	11* (13.3)	11* (11.3)	10* (16.9)	13* (21.3)	7* (11.3)	6* (9.0)	7 (12.1)	10 (18.7)	120* (14.4)
カンピロバクテ ラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (1.7)	-	1 (0.1)
ルシネモス・ シロイデス	1 (1.5)	-	-	-	1* (1.2)	4* (4.1)	1* (1.7)	-	-	-	-	-	7* (0.8)
エントリス spp	-	-	-	-	-	1* (1.0)	1* (1.7)	1 (1.6)	-	-	-	-	3* (0.4)

備考：*印は、同一患者から 2～4 菌種の病原菌が検出された事例（24 事例）。

（ ）内の数字は、検査件数に対する％を表す。

EIEC、セラ菌 01、セラ菌 non-01：陰性

イ2件(0.7%),カンピロバクター・ジェジュニ14件(4.9%),プレシオモナス・シゲロイデス28件(9.9%),エロモナスspp14件(4.9%)が検出された。EIEC, VTEC, エルシニア・エンテロコリチカ, コレラ菌01, ビブリオ・ミミカス, ビブリオ・フルビアリス, カンピロバクター・コリは検出されなかった。

同一患者から2～3菌種の病原菌による混合感染事例が24事例みられた。

表3. 検疫通報及び汚染地域来航者からの病原菌検出状況(平成3年4月～4年3月)

年 月	2 4	5	6	7	8	9	10	11	12	3 1	2	3	計
検査件数	14	23	20	26	38	36	28	21	10	20	12	35	283
陽性件数 (%)	3 (21.4)	12* (52.2)	8* (40.0)	13* (50.0)	19* (50.0)	21* (58.3)	14* (50.0)	8* (38.1)	4 (40.0)	10* (50.0)	4* (33.3)	11* (31.4)	127* (44.9)
赤痢菌	-	1 (4.3)	-	-	-	-	1 (3.6)	-	-	-	-	1* (2.9)	3* (1.1)
サルモネラ	2 (14.3)	1 (4.3)	1 (5.0)	2* (7.7)	4* (10.5)	1* (2.8)	5 (17.9)	-	-	-	-	-	16* (5.7)
EPEC	-	1 (4.3)	2 (10.0)	3 (11.5)	1 (2.6)	1 (2.8)	1 (3.6)	4* (19.0)	-	1 (5.0)	2 (16.7)	4* (11.4)	20* (7.1)
ETEC	1 (7.1)	6* (26.1)	3* (15.0)	7* (26.9)	6* (15.8)	7* (19.4)	4* (14.3)	3 (14.3)	2 (20.0)	6* (30.0)	-	4* (11.4)	49* (17.3)
腸炎ビブリオ	-	-	2 (10.0)	-	2* (5.3)	2 (5.6)	-	3* (14.3)	1 (10.0)	2 (10.0)	1 (8.3)	1 (2.9)	14* (4.9)
コレラ菌 non-01	-	-	1 (5.0)	-	3* (7.9)	-	-	-	-	-	-	-	4* (1.4)
ビブリオ・ ファルニシ	-	-	-	-	-	-	2* (7.1)	-	-	-	-	-	2* (0.7)
カンピロバクテ ー・ジェジュニ	1 (7.1)	1* (4.3)	1* (5.0)	2* (7.7)	2 (5.3)	-	1 (3.6)	-	1 (10.0)	-	1* (8.3)	4* (11.4)	14* (4.9)
カシオキス シロイデス	-	3* (13.0)	-	3* (11.5)	6* (15.8)	10* (27.8)	1 (3.6)	1* (4.8)	-	2* (10.0)	1* (8.3)	1* (2.9)	28* (9.9)
エロモナス spp	-	2* (8.7)	-	3* (11.5)	1 (2.6)	3 (8.3)	4 (14.3)	-	-	-	-	1* (2.9)	14* (4.9)

備考：*印は、同一患者から2～3菌種の病原菌が検出された事例(24事例)。

()内の数字は、検査件数に対する%を表す。

EIEC, VTEC, エルシニア・エンテロコリチカ, コレラ菌 01, ビブリオ・ミミカス, ビブリオ・フルビアリス, カンピロバクター・コリ：陰性

イ. 食中毒発生状況

平成3年度の市内食中毒事例は表4に示すとおりである。発生事例は4例であり、ウエルシュ菌によるものが2例で飲食店（仕出屋）と病院給食での発生であった。腸炎ビブリオによるものが2例であり、飲食店（一般食堂）での発生と1例は詳細不明であった。

表4. 市内食中毒発生事例（平成3年4月～4年3月）

No	年月日	摂食者数	患者数	死者数	原因食品	原因物質	原因施設	摂食場所
1	3. 4. 2	2,165	645	0	カレー	ウエルシュ菌	飲食店 (仕出屋)	仕出先
2	8. 9	22	7	0	刺身 (推定)	腸炎ビブリオ	飲食店 (一般食堂)	飲食店 (一般食堂)
3	9. 4	不明	1	0	不明	腸炎ビブリオ	不明	不明
4	4. 1.10	120	71	0	ビビンバ	ウエルシュ菌	病院 (給食)	病院

ウ. 感染症サーベランス事業

(ア) 百日咳

百日咳の抗体検査は、10歳以下の小児を対象に44名について行い、年齢群の検査件数と抗体価分布は表5に示すとおりである。

百日咳菌分離は2件行い全て陰性であった。（表6）

表5. 百日咳の抗体価分布（平成3年4月～4年3月）

年齢	検査件数	抗原	抗 体 価								
			<10	10	20	40	80	160	320	640	1280≤
0～3	37	ワクチ株	3	3	4	5	11	5	5	-	1
		新分離株	1	8	10	9	4	3	1	-	1
4～6	6	ワクチ株	-	-	-	1	2	1	1	1	-
		新分離株	-	-	2	1	1	1	1	-	-
7～10	1	ワクチ株	-	-	-	1	-	-	-	-	-
		新分離株	-	-	1	-	-	-	-	-	-
計	44										

備考：上記成績は、ワクチ株（東浜株，血清型1,2型），新分離株（山口株，血清型1,3型）の2抗原を用いた凝集素価である。

(イ) 異型肺炎

異型肺炎患者からの菌 (*M. pneumoniae*) 分離状況は表 7 に示すとおり、検査件数 7 件であり 2 件陽性であった。

(ウ) 溶連菌

溶連菌分離状況は表 8 に示すとおりである。患者（溶連菌感染症を疑われる人）と、その他（溶連菌以外の疾患の人）について検査を実施した。患者では、16 名中 9 名（56.3%）が陽性であり、全て A 群であった。その他は、11 名中 2 名（18.2%）が陽性であり 2 件とも B 群であった。

A 群の T 型別については表 9 に示すとおりである。

表 6. 百日咳菌分離状況
(平成 3 年 4 月～4 年 3 月)

検査件数	陽性数
2	0

表 7. 異型肺炎分離状況
(平成 3 年 4 月～4 年 3 月)

検査件数	陽性数
7	2

表 8. 溶連菌分離状況 (平成 3 年 4 月～4 年 3 月)

区 分	検査件数	陽 性 数				計
		A 群	B 群	C 群	G 群	
患 者	16	9 (56.3)	-	-	-	9 (56.3)
その他	11	-	2 (18.2)	-	-	2 (18.2)
計	27	9 (33.3)	2 (7.4)	-	-	11 (40.7)

備考：（ ）内の数字は、検査件数に対する%を表す。

表 9. A 群 T 型別

区 分	T 型						計
	1	4	12	13	22	UT	
患 者	3	1	1	1	1	2	9

エ. 河川等の定点観測

河川水及び海水からの病原菌検出状況は表 10 に示すとおりである。毎月 15 検体、延べ 180 検体について検査を行ない、コレラ菌 non-01 65 検体（36.1%）、腸炎ビブリオ 42 検体（23.3%）、腸チフス、パラチフス以外のサルモネラ 121 検体（67.2%）から検出された。赤痢菌、コレラ菌 0.1、腸チフス、パラチフスは検出されなかった。

表 1 0. 河川水及び海水からの病原菌検出状況（平成 3 年 4 月～ 4 年 3 月）

検査項目	年月	H.3												4			計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
赤痢菌		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
コレラ菌 01		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
コレラ菌 non-01		3	-	4	4	8	12	9	6	6	5	2	6	65 (36.1)			
腸炎ビブリオ		3	8	7	6	2	4	2	4	2	1	2	1	42 (23.3)			
サルモネラ																	
腸チフス		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
パラチフス		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
その他		12	12	13	11	1	10	12	12	10	9	8	11	121 (67.2)			
検体数		15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180			

オ. 食品細菌

食品細菌は表 1 1 に示すとおりである。平成 3 年度の総検体数は 3,358 検体で、違反項目（食品衛生法、成分規格基準及び川崎市の食品等の衛生指導基準による）は、延 1,538 件であった。違反項目で最も多い項目は大腸菌群の 595 件、次いで細菌数 411 件、セレウス菌 300 件、腸炎ビブリオ 68 件、ぶどう球菌 40 件、ビブリオ・フルビアリス 34 件、ウエルシュ菌 34 件、サルモネラ菌 26 件などの順であった。違反項目の多い食品は、生鮮魚介類（さしみ、すし種、貝類、生食用カキ）、食肉、豆腐、弁当、調理パン、そう菜、和洋生菓子類であり、また、調理器具や手指などのふきとりからも違反項目が多く検出された。

次に、食品別の病原菌検出状況では、セレウス菌は豆腐、生食用カキ、そう菜に、腸炎ビブリオやビブリオ・フルビアリスなどの病原ビブリオは生食用鮮魚介類に、ぶどう球菌は手指ふきとりに、ウエルシュ菌は生食用カキに、サルモネラ菌は食肉に多く検出され、特に本年度は、サルモネラ菌がスプーンの体表のふきとりから多く検出されたことが特徴的であった。

表 1.1. 食品細菌検査件数 (平成 3 年 4 月～4 年 3 月)

品 目			検 体 数	違 反 件 数									
				細 菌 数	大 腸 菌 群	ぶ ど う 球 菌	サル モ ネ ラ	腸 炎 ビ ブ リ オ	フ ル ビ ア リ ス	カン ビ ロ バ ク タ ー	セ レ ウ ス 菌	ウ エ ル シ ユ 菌	E・ c o l i 菌
魚 介 類 及びその加工品	鮮 魚 類	鮮 魚 類	24	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	鮮 魚 介 類	鮮 魚 介 類	46	-	-	-	-	1	-	-	25	14	3
	鮮 魚 介 類	鮮 魚 介 類	75	27	17	1	-	33	4	-	4	2	2
	鮮 魚 介 類	鮮 魚 介 類 その他 (さみ、丸種)	253	88	41	3	-	31	29	-	5	4	-
	魚肉ねり製品		82	3	3	-	-	-	-	-	3	-	-
食 肉 及びその加工品	食 肉	食 肉	83	-	49	-	6	-	-	2	1	4	-
	食 肉	食 肉 製 品	68	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-
乳 及びその加工品	乳 製 品	乳 製 品	30	4	-	-	-	-	-	-	4	-	-
	乳 製 品	乳 製 品	60	1	3	-	-	-	-	-	7	-	-
	乳 製 品	乳 製 品 その他 (ソフトクリーム)	27	1	2	-	-	-	-	-	6	-	-
穀 類・豆 類 及びその加工品	め ん 類	め ん 類	68	23	2	1	-	-	-	-	1	-	-
	豆 類	豆 類	123	7	3	-	-	-	-	-	50	-	-
	豆 類	豆 類 その他 (納豆等)	69	1	-	-	-	-	-	-	2	-	3
野菜・果実類 及びその加工品	漬 物	漬 物	22	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-
	漬 物	漬 物 その他 (生野菜等)	53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
冷 凍 食 品	冷 凍 食 品		15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
弁当・そう菜類	弁 当	弁 当	144	40	28	1	-	2	1	-	7	1	1
	調 理	調 理	128	36	33	3	-	-	-	-	14	1	-
	そ う 菜	そ う 菜	1,004	148	181	3	-	-	-	-	61	2	2
菓 子 類	菓 子 類		215	26	12	3	-	-	-	-	19	2	-
飲 料 類	清 涼 飲 料 水		11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の食品	氷 菓	氷 菓	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	レトルト食品	レトルト食品	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	健康食品	健康食品	20	-	-	-	-	-	-	-	4	-	6
ふ き と り	器 具	器 具	473	-	137	7	-	-	-	-	58	1	-
	手 指	手 指	193	-	83	18	-	-	-	-	23	2	-
	その他 (おしぼり)	その他 (おしぼり)	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
そ の 他	スッポン体表ふきとり	スッポン体表ふきとり	27	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-
	そ の 他	そ の 他	12	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
計			3,358	411	595	40	26	68	34	2	300	34	8

(2) 臨床検査部門

当部門の業務は、梅毒血清学検査、生化学検査、血液学検査、寄生虫検査、HB抗原抗体検査、HIV検査、つづが虫病検査、衛生動物検査、スギ花粉調査等の検査及び研究業務を行なっている。

ア. 梅毒血清学検査

梅毒血清学検査の結果は、表1及び表2に示すとおりである。

検査件数は、減少傾向にある。

表1. 梅毒血清学的検査法別成績

() 内 %

年	件数	定 性			定 量		TPHA		FTA
		緒方法	凝集法	ガラス板 法	緒方法	凝集法	定性法	定量法	-ABS
昭和58年	総数	1,051	1,051	1,061	5	5	33	15	0
	陽性	29(2.7)	30(2.3)	33(3.1)	—	—	12(36.4)	0	—
59年	総数	1,044	1,044	1,044	14	14	10	10	0
	陽性	12(1.1)	12(1.1)	11(1.1)	—	—	5(50.0)	0	—
60年	総数	1,042	1,042	1,042	2	2	5	33	0
	陽性	12(1.1)	14(1.3)	12(1.1)	—	—	2(40.0)	0	—
61年	総数	1,188	1,188	1,188	1	1	1	20	0
	陽性	17(1.4)	17(1.4)	17(1.4)	—	—	0	0	—
62年	総数	1,194	1,194	1,194	0	0	5	16	0
	陽性	14(1.1)	13(1.1)	13(1.1)	—	—	2(40.0)	0	—
63年	総数	1,063	1,063	1,064	1	0	4	11	0
	陽性	13(1.2)	17(1.5)	18(1.6)	—	—	0	0	—
平成元年	総数	922	922	922	1	0	27	20	0
	陽性	6(0.6)	9(1.0)	10(1.0)	—	—	3(11.1)	0	—
2年	総数	723	723	723	0	0	33	40	0
	陽性	8(1.1)	12(1.7)	11(1.5)	—	—	2(6.1)	0	—
3年	総数	640	640	640	0	0	36	47	0
	陽性	8(1.3)	13(2.0)	12(1.9)	—	—	3(8.3)	—	—

表2. 平成3年度 梅毒血清学的検査依頼状況

	母 性	婚 前	一 般	施 設 入 所	減 免	医 院	行 政	その他	計
件 数	199	49	386	8	2	0	1	0	645

イ. 生化学検査

生化学検査の結果は、表3に示すとおりで検査件数において、4,684件と前年度に比べ219件増加した。

表3. 平成3年度 生化学検査件数

検 査 項 目	保 健 所	行 政	そ の 他	計
総 た ん ぱ く	0	176	27	203
た ん ぱ く 分 画	0	176	26	202
黄 だ ん 指 数	0	176	0	176
C C L F	0	176	0	176
T T T	0	176	26	210
Z T T	0	184	426	602
G O T	0	184	436	620
G P T	0	184	436	620
A L P	0	176	34	210
L D H	0	176	34	210
r - G T P	0	176	36	212
中 性 脂 肪	0	176	33	209
総 コレステロール	0	176	33	209
ナ ト リ ウ ム	0	176	29	205
カ リ ウ ム	0	176	29	205
血 糖	0	176	33	209
尿 素 窒 素	0	176	29	205
尿 酸	0	0	0	0
リ チ ウ ム	0	1	0	1
計	0	3,017	1,667	4,684

ウ. 血液学検査

血液学検査の結果は、表 4 に示すとおりで検査件数において、880 件と前年度に比べ 105 件の増加となった。

表 4. 血液検査件数（平成 3 年度）

検 査 項 目	行 政	保 健 所	合 計
赤 血 球 数	176	0	176
白 血 球 数	176	0	176
血 色 素 量	176	0	176
ヘマトクリット	176	0	176
血 液 像	176	0	176
計	880	0	880

表 5. 職員年度別 HBs 抗原・抗体陽性率（昭和 54 年度～平成 3 年度）

年 度	HBs 抗原 陽 性	HBs 抗体 陽 性
54	6 / 237 (2.5 %)	37 / 237 (15.6 %)
55	5 / 249 (2.0 %)	40 / 249 (16.1 %)
56	3 / 260 (1.2 %)	44 / 260 (16.9 %)
57	6 / 274 (2.2 %)	44 / 274 (16.1 %)
58	3 / 271 (1.1 %)	49 / 271 (18.1 %)
59	2 / 313 (0.6 %)	54 / 313 (17.3 %)
60	6 / 333 (1.8 %)	59 / 333 (17.7 %)
61	5 / 357 (1.4 %)	62 / 357 (17.4 %)
62	7 / 443 (1.6 %)	89 / 443 (20.1 %)
63	6 / 411 (1.5 %)	196 / 411 (47.7 %)
元 年	4 / 412 (1.0 %)	184 / 412 (44.7 %)
2 年	4 / 401 (1.0 %)	152 / 401 (37.9 %)
3 年	5 / 398 (1.3 %)	165 / 398 (41.5 %)

HB ワクチン接種者 165 名に対して抗体陽性者 98 名で 59.4% の保有率であった。

表 6. 職員 B 型肝炎定期検診施設別件数 (昭和 55 年～平成 3 年)

年 度	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3
川 崎 保 健 所	20	22	19	20	21	11	21	27	18	24	28	27
大 師 保 健 所	11	12	11	18	17	17	20	24	22	22	22	21
田 島 保 健 所	12	19	13	15	25	20	24	28	34	33	25	27
幸 保 健 所	24	18	26	24	26	29	30	31	32	31	32	29
中 原 保 健 所	44	38	29	22	19	26	30	40	39	44	39	41
衛 生 研 究 所	26	26	24	26	31	29	29	35	25	30	24	26
高 等 看 護 学 院	10	11	10	6	11	10	12	12	11	11	12	10
リハビリテーション 医療センター	25	24	20	18	20	29	30	29	28	27	31	31
がん検診センター	13	10	12	18	20	23	22	24	23	22	21	24
高 津 保 健 所	35	47	38	32	40	42	43	52	46	45	45	37
宮 前 保 健 所	—	—	27	26	31	34	33	37	36	38	37	32
多 摩 保 健 所	29	33	25	26	31	30	33	45	41	37	32	41
麻 生 保 健 所	—	—	20	20	19	28	25	44	42	39	42	37
精神保健相談センター	—	—	—	—	—	2	2	4	4	4	6	6
向 丘 診 療 所	—	—	—	—	2	3	3	2	3	3	5	4
保健部地域保健課	—	—	—	—	—	—	—	9	7	2	—	—
三 田 診 療 所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5
総 件 数	249	260	274	271	313	333	357	443	411	412	401	398

表 6-2. 高等看護学院生 B 型肝炎定期検診 (平成 3 年度)

対 象	総件数	HBs 抗原陽性者数	HBs 抗体陽性者数
学 生	188	1 (0.5%)	21 (11.2%)

※HBs 抗原陽性者 1 名は、HBe 抗体陽性者であった。

表 7. 川崎市 B 型肝炎母子感染防止対策事業による HBs 抗原検査 (平成 3 年度)

対 象	総件数	HBs 抗原陽性者数	HBs 抗体陽性者数
妊 婦	183	1 (0.5%)	7 (3.8%)

HBs 抗原陽性者 1 名は、HBe 抗体陽性者であった。

表 8. 一般依頼によるHBs 抗原・抗体検査（平成3年度）

対 象	総件数	HBs 抗原陽性者数	HBs 抗体陽性者数
一般依頼	349	9 (2.6%)	38 (10.9%)

HBs 抗原陽性者は9名(2.6%)で、1名はHBe抗原陽性で8名はHBe抗体陽性であった。

表 9. 平成3年度 HIV抗体検査件数

	保 健 所	そ の 他	計
平成3年 4月	8	25	33
5月	13	30	43
6月	16	20	36
7月	21	25	46
8月	7	25	32
9月	15	20	35
10月	9	20	29
11月	23	20	43
12月	61	20	81
平成4年 1月	58	30	88
2月	98	20	118
3月	180	20	200
計	509	275	784

表 10. 感染症サーベランス事業HCV関連抗体の検出状況

(平成3年4月～4年3月)

性別	年齢(歳)	≤ 19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	≥ 70	不明	合計
男	検査件数	1	—	—	5	9	5	1	1	22
	陽性件数 (%)	1 (100%)	—	—	4 (80.0%)	7 (77.8%)	4 (80.0%)	—	1 (100%)	17 (77.3%)
女	検査件数	—	2	1	—	11	9	1	—	24
	陽性件数 (%)	—	1 (50.0%)	1 (100%)	—	6 (54.5%)	7 (77.8%)	1 (100%)	—	16 (66.7%)
計	検査件数	1	2	1	5	20	14	2	1	46
	陽性件数 (%)	1 (100%)	1 (50.0%)	1 (100%)	4 (80.0%)	13 (65.0%)	11 (78.5%)	1 (50.0%)	1 (100%)	33 (71.7%)

エ. 寄生虫検査

(ア) 民生局関係から、63例のぎょう虫検査の依頼あり（セロハンテープ法）。他に一般依頼1例あったがいずれも陽性者は無かった。

(イ) 行政（保健所・教育委員会）から公園砂場の回虫卵検査の依頼あり。162検体中陽性53検体であった。

オ. つつが虫病患者血清抗体価検査

医療機関から被検者4名8検体の依頼あり。内、つつが虫病に対する抗体（IgM, IgG）が間接蛍光抗体法により確認されたものは3名であった。

カ. スギ花粉調査

昭和61年2月から衛生局で実施してきたスギ花粉調査の一環として、衛生研究所屋上およびヘリコプター（消防局航空隊の協力による）での上空花粉の調査を、平成3年度も継続して行った。

（ア）調査項目

a. 落下花粉調査：衛生研究所屋上での、継続的に行ってきたダーハム式標準捕集器の他にISロータリー式捕集器を用い、24時間毎に観察した。

b. 上空花粉調査：ヘリコプターによる市域および周辺上空の定点における飛散花粉を捕集した。

（イ）調査結果

a. 年間総捕集数は2,243 cell/cf（ダーハム式）で、過去6年間では2番目に多い年であった。ISロータリー式捕集器では年間総捕集数が9,524 cell/cfで、前者よりもはるかに多く捕れた（表1）。

b. 最多捕集月は3月で、最多捕集日は3月20日で340 cell/cf捕集された。

c. 上空における合計8回の捕集数は204.2 cell/cfで、他の定点と比べてやや少ない傾向であった（表2）。

d. スギ以外の花粉はスギ花粉のピークよりやや遅い所に出ており、数はスギ花粉よりもはるかに少なかった（表3）。

表1. スギ花粉捕集数（cell/cf/24h）

平成3年度(1991)																																
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	2	1	1	1	1	12	6	/	/	/	27
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	2	1	1	7	2	2	2	1	1	39	44	/	/	/	105
3月	0	4	5	76	4	222	154	2	19	42	0	10	113	51	22	6	16	20	137	340	110	14	43	11	14	15	0	18	9	0	51	1,528
	2	27	48	399	36	370	780	14	45	163	0	39	531	238	126	10	113	90	545	1,218	997	11	55	54	75	106	3	155	234	3	460	6,947
4月	9	17	23	74	133	22	1	0	64	72	7	3	34	31	26	15	20	26	4	18	21	1	7	4	0	1	11	1	5	9	/	659
	103	109	54	198	281	54	1	52	94	169	30	18	201	127	72	14	74	65	7	38	151	7	36	4	0	33	128	0	63	143	/	2,326
5月	3	12	4	0	0	0	0	1	0	1	4	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
	13	66	26	0	0	0	2	1	1	2	9	1	2	4	0	4	2	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	143

（注）上段：ダーハム式捕集器、下段：ISロータリー式捕集器

表 2. ヘリコプターによる上空スギ花粉捕集成績

平成 3 年 (1991)

上空定点	1月30日	2月6日	2月14日	2月21日	3月12日	4月2日	4月9日	4月23日
高島平	0.3	0	3.5	0.9	204.8	142.2	2.7	0.9
橋 本	—	0	5.2	1.6	129.1	3.8	6.2	0.6
逗 子	0	0	8.5	0.7	80.9	2.8	214.4	0.2
川 崎	1.2	0	3.7	4.1	165.2	3.1	26.9	0.2

注：ヘリコプターの飛行捕集条件（高度 300 m，飛行速度 40 ノット），—；調査せず，飛行調査
時間帯 13:30～15:00（1 定点当り 5 分間捕集；個/cm³）

表 3. 衛生研究所屋上で捕集されたスギ以外の花粉 (cell/cm³/day)

平成 3 年 (1991)

	ハンノキ		シラカバ		ヒノキ		イチョウ		コナラ		ケヤキ		サクラ		マツ		クルミ		未同定	
	D	R	D	R	D	R	D	R	D	R	D	R	D	R	D	R	D	R	D	R
2月																				
1～10日	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11～20日	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21～28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月																				
1～10日	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11～20日	1	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21～31日	0	0	0	8	1	12	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
4月																				
1～10日	10	25	8	16	28	50	1	3	10	10	0	2	0	0	0	0	0	2	28	
11～20日	3	5	4	6	67	278	7	7	13	26	0	1	13	43	10	49	1	7	7	35
21～30日	9	22	3	12	63	503	2	48	36	152	8	25	23	102	33	177	6	26	14	13
5月																				
1～10日	0	0	23	91	17	169	0	15	2	2	3	19	0	0	21	161	3	24	26	98
11～20日	0	3	20	29	32	168	0	0	3	3	0	1	1	0	37	89	8	33	29	77
21～31日	0	0	0	1	4	67	0	0	0	0	0	0	0	0	7	71	5	21	13	19
合 計	24	68	58	169	212	1,247	10	74	64	193	11	48	37	145	108	547	23	111	92	270

注：D=Durham 式捕集器，R=IS ロータリー式捕集器

キ. 衛生動物検査

衛生動物に関する検査は感染症対策課、環境食品課および保健所行政機関の他、保育園などの公的機関および民間事業所や一般市民から依頼された。平成3年度は行政機関からの依頼が、昆虫類91件、ダニ類84件、その他1件であった。一般市民からの依頼検査は、昆虫類5件、ダニ類16件で、総数176件であった。これは前年度の56件より120件多い結果であった(表4)。

同定されたものの中で最も出現頻度の高いのは室内塵由来のもので、昆虫ではチャタテムシ、ダニではコナヒョウヒダニで、両種とも概ね7月から9月の3カ月に集中した(表5)。

表4. 衛生動物の項目別検査依頼件数

総 数			総 数	行政依頼	一般依頼
総 数			176	155	21
昆 虫 類	総 数		91	86	5
	刺 食 不	咬 品 快	0	0	0
			3	3	0
ダ ニ 類 (室内塵)	総 数		84	68	16
	検 出	刺 食 不	28	20	8
		咬 品 快	0	0	0
			20	12	8
そ の 他	不 検 出		36	36	0
	ム カ デ		1	1	0

表5. 苦情相談検体より検出同定された動物の月別出現頻度(回数)

項 目		総頻度	平成3年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成4年	1月	2月	3月
総 頻 度		132	-	-	4	6	40	70	1	-	-	-	9	2	-	-
昆 虫 類	総 頻 度	38	-	-	1	3	10	15	1	-	-	-	7	-	-	-
	シラミ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	シメバネ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	ノミ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	カメムシ	27	-	-	-	2	9	12	-	-	-	-	4	-	-	-
	コナヒョウヒ	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	タバコ	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	ジンギ	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	チヌ	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	スズメバチ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オオムシ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オオハシ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オオハシ	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ダ ニ 類	総 頻 度	92	-	-	2	2	30	54	-	-	-	-	2	2	-	-
	タケ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	カガ	19	-	-	-	-	4	14	-	-	-	-	1	-	-	-
	ナゲ	4	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	ヤナ	37	-	-	1	1	12	20	-	-	-	-	1	2	-	-
	コナ	15	-	-	-	1	8	6	-	-	-	-	-	-	-	-
	ホソ	11	-	-	-	-	3	8	-	-	-	-	-	-	-	-
	フタ	4	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
	ワタ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クダ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
そ の 他	総 頻 度	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	アム	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*同一の検体より、複数種の検出される場合がある。

(3) ウイルス検査部門

ア. インフルエンザ検査

平成4年1月17日から2月13日までの期間に9施設、37学級で集団かぜが発生した。調査を行った1集団からはインフルエンザウイルスは分離されなかった(表1)。

表 1.

検体採取	学 校 名	ウイルス分離	血清検査	ウイルス型
4. 2. 5	中野島小(多摩区)	0/4	0/4	—

イ. 風疹抗体検査

平成3年度の月別検査件数は表2に示すとおりである。

表 2.

年 月	3.4	5	6	7	8	9	10	11	12	4.1	2	3	合計
検査件数	13	13	16	10	10	4	6	8	8	10	10	16	124

ウ. 感染症サーベイランス事業

(ア) 26歳以下を対象に麻疹、風疹ならびにおたふくかぜの抗体検査を行った。それぞれのウイルスに対する検査件数と抗体保有率は、表3に示すとおりである。

表 3.

検査項目 年齢(歳)	麻 疹		風 疹		おたふくかぜ	
	検査件数	H I 抗体 保有率(%)	検査件数	H I 抗体 保有率(%)	検査件数	H I 抗体 保有率(%)
～ 1	6	4 (66.7)	6	2 (33.3)	6	2 (33.3)
1～ 2	28	28(100.0)	28	19 (67.9)	28	10 (35.7)
3～ 4	5	5(100.0)	5	3 (60.0)	5	2 (40.0)
5～ 6	4	4(100.0)	4	1 (25.0)	4	3 (75.0)
7～ 8	0	0 (0.0)	0	0 (0.0)	0	0 (0.0)
9～10	1	1(100.0)	1	1(100.0)	1	1(100.0)
11～	4	3 (75.0)	4	3 (75.0)	4	1 (25.0)
年齢不明	1	1(100.0)	1	1(100.0)	1	0 (0.0)
合計	49	46 (93.9)	49	30 (61.2)	49	19 (38.8)

(4) 下痢症患者糞便から逆受身赤血球凝集 (R-PHA) 法によりロタウイルスの検出を行った。

33 例中、1 歳のみ陽性者が認められた (表 4)。月別による陽性者は 12 月から 3 月にみられた (表 5)。便の色別による陽性者は白色系と黄色系でみられた (表 6)。便の性状別による陽性者は水様便と泥状便それに有形軟便でみられた (表 7)。陽性者の主な臨床症状は嘔吐、発熱、腹痛であった (表 8)。

表 4.

年齢 (歳)	検査件数	ロタウイルス 陽性数 (%)
～1	6	-
1	19	9(47.4)
2	4	-
3～5	2	-
6～10	1	-
年齢不明	1	-
合 計	33	9(27.3)

表 5.

発症年月	検査件数	陽性数 (%)	発症年月	検査件数	陽性数 (%)
3.4	-	-	3.10	1	-
5	-	-	11	5	-
6	-	-	12	6	1(16.7)
7	-	-	4. 1	3	1(33.3)
8	-	-	2	6	2(33.3)
9	-	-	3	12	5(41.7)

表 6.

色	検査件数	陽性数 (%)
白色系	13	5(38.5)
黄色系	15	4(26.7)
緑色系	4	0(0.0)
褐色系	1	0(0.0)

表 7.

性 状	検査件数	陽性数 (%)
水 様 便	13	6(46.2)
泥 状 便	14	2(14.3)
有形軟便	5	1(20.0)
粘 血 便	1	-

表 8.

症 状	有(%)	無	計
嘔 吐	8 (88.9)	1	9
発熱 (37℃～)	4 (44.4)	5	9
脱 水	-	9	9
腹 痛	1 (11.1)	8	9

(ウ) 市内医療機関に来院した患者について、陰部ヘルペスの検出を直接蛍光染色法で行った。年齢、性別の検出率は表 9 に示すとおりである。

表 9.

性 別	年 齢 (歳)	～20	20～29	30～39	40～49	50～	合計
男	検査件数	1	2	-	-	-	3
	陽性数(%)	0(0.0)	1(50.0)	-	-	-	1(33.3)
女	検査件数	2	4	2	1	1	10
	陽性数(%)	・2(100.0)	1(25.0)	・2(100.0)	・1(100.0)	0(0.0)	6(60.0)
合 計	検査件数	3	6	2	1	1	13
	陽性数(%)	2(66.6)	2(33.3)	2(100.0)	1(100.0)	0(0.0)	7(53.8)

・印はヘルペス 2 型を各 1 件含む (他はヘルペス 1 型)

(ニ) 市内医療機関に来院した患者について、陰部クラミジアの検出を直接蛍光染色法で行った。年齢、性別の検出率は表 10 に示すとおりである。

表 10.

性 別	年 齢 (歳)	～20	20～29	30～39	40～49	50～	年齢不明	合計
男	検査件数	3	35	31	21	6	1	97
	陽性数(%)	2(66.6)	9(25.7)	8(25.8)	4(19.0)	0(0.0)	0(0.0)	23(23.7)
女	検査件数	1	6	1	-	-	-	8
	陽性数(%)	1(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	-	-	-	1(12.5)
合 計	検査件数	4	41	32	21	6	1	105
	陽性数(%)	3(75.0)	9(22.0)	8(25.0)	4(19.0)	0(0.0)	0(0.0)	24(22.9)

(㊦) 市内医療機関に来院したかぜ様患者について、ウイルス分離を細胞培養法で行った。月別の分離率は表 11 に示すとおりである。

表 11.

発症年月	検査件数	分離数(%)	インフルエンザウイルス			その他のウイルス(%)
			A 香港型(%)	A ソ連型(%)	B 型(%)	
3. 4	2	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	コクサッキー-B3 1株(33.3) Iⅴ-9 2株(9.5), Iⅴ-11 1株(4.8)
5	1	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	
6	3	1(33.3)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	
7	1	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	
11	21	5(23.8)	0(0.0)	2(9.5)	0(0.0)	
12	57	20(35.1)	0(0.0)	20(35.1)	0(0.0)	
4. 1	182	55(30.2)	4(2.2)	51(28.0)	0(0.0)	
2	241	97(40.2)	0(0.0)	97(40.2)	0(0.0)	
3	27	7(25.9)	1(3.7)	6(22.2)	0(0.0)	
合 計	535	185(34.6)	5(1.0)	176(32.9)	0(0.0)	

(㊦) 市内医療機関に来院したヘルパンギーナ、髄膜炎患者等について、ウイルス分離を細胞培養法で行った。月別の分離率は表 12 に示すとおりである。

表 12.

発症年月	検査件数	分離数(%)	分離ウイルス			
			・コクサッキー-A群	Iⅴ- 9型	Iⅴ- 30型	ヘルパンウイルス
3. 4	5	1 (20.0)	-	-	-	1(20.0)
5	4	0 (0.0)	-	-	-	-
6	36	25 (69.4)	・ 2(5.6)	-	20(55.6)	3(8.3)
7	120	73 (60.8)	・ 5(4.2)	-	65(34.2)	3(2.5)
8	49	14 (28.6)	・ 2(4.1)	-	12(24.5)	-
9	18	7 (38.9)	-	-	7(38.9)	-
10	17	5 (29.4)	-	3(17.6)	2(11.8)	-
11	3	1 (33.3)	-	1(33.3)	-	-
12	28	7 (25.0)	-	-	7(25.0)	-
4. 1	6	0 (0.0)	-	-	-	-
2	6	0 (0.0)	-	-	-	-
3	1	0 (0.0)	-	-	-	-
合計	293	133 (45.4)	9(3.1)	4(1.4)	113(38.6)	7(2.4)

※ コクサッキー A6 1株, A10 1株
 ※※ コクサッキー A2 1株, A5 2株, A6 2株
 ※※※ コクサッキー A2 1株, A10 1株

2. 理化学検査担当

(1) 食品検査部門

ア. 収去検査

市内 9 保健所及び環境食品課から搬入された、食品及び食品添加物等について、食品衛生法に基づく規格基準等に係わる試験を実施したが、違反はなかった。(表 1)

イ. 合成抗菌剤、抗生物質残留検査

国産及び輸入畜水産食品中の抗生物質 3 種類、合成抗菌剤 1 2 種類について検査を実施したがいずれも検出されなかった。(表 2)

ウ. 自然毒検査

貝毒検査ではホタテ貝について検査を行ったが、下痢性貝毒、麻痺性貝毒ともに基準値以下であった。

又、フグ毒検査は、フグ加工品 5 検体について検査を行ったが、すべて基準値以下であった。

カビ毒検査は、全て不検出であった。(表 3)

エ. 苦情食品検査

(ア) サバの文化干しの異味、異臭：苦情品、対照品についてヒスタミン、揮発性塩素窒素、酸価、過酸化価の検査を行ったが、異常は認められなかった。

(イ) クエミリンの成分試験：南部市場に搬入されたクエミリンについて、脂質、ワックス分、不ケン化物の検査を実施したが、ワックス分の多い魚種ではなかった。

(ウ) オムレツ中の異物：オムレツ中に黒い異物があり、血液と疑われたため、ルミノール反応を行ったが、ルミノール反応陰性であった。

(エ) 粉乳中の異物：粉乳中に黒い異物がみられ、鏡検を行ったところ、脂肪球が焦げた焦粉と判定した。

(オ) 菓子パンによる口唇のはれ：菓子パンについて、アセトアルデヒド、酢酸エチル、エチルアルコール、臭素酸カリウムの検査を実施したが、いずれも不検出であった。

オ. TBTO, TPT検査

魚類 6 種について検査を実施した。TBTOについては、 $0.12 \sim 0.17 \mu\text{g/g}$ 、TPTについては、 $0.25 \sim 0.96 \mu\text{g/g}$ 検出された。

カ. 健康食品検査

環境食品課依頼の、健康食品 10 検体、44 項目（ビタミン E、フェオフォルバイト、クロロフィル a、クロロフィル b、総カロチノイドなど）について、検査を実施したが、全て、自主規格に適合していた。

表 1. 食品及び、食品添加物の規格基準等に係わる検査内容一覧

検 査 内 容		検 体 数	項 目 数	不 適 数
食 品 中 の 添 加 物 な ど	保 存 料	3 5 0	4 4 9	0
	甘 味 料	6 5	6 5	0
	合 成 着 色 料	2 1 8	2 2 0	0
	漂 白 剤	4 5	4 5	0
	発 色 剤	1 0 2	1 0 2	0
	酸 化 防 止 剤	3 3	4 8	0
	品 質 保 持 剤	5 1	5 1	0
	防 か び 剤	1 5	4 3	0
	殺 菌 料	1 2	1 2	0
	強 化 剤	2 1	4 2	0
	酸 価 過 酸 化 物 価	1 7	3 4	0
	シ ア ン 化 合 物	1	1	0
	そ の 他 の 試 験	2 9	2 9	0
小 計		9 5 9	1,1 4 1	0
規 格	器 具 , 容 器 包 装	0	0	0
	牛 乳 , 乳 製 品	6 9	1 9 7	0
	食 品 添 加 物	1 2	1 1 7	0
	小 計	8 1	3 1 4	0
食 品 の 品 質 等 の 試 験		3 6	3 6	—
そ の 他		1 0 7	1 6 6	—
総 計		1,1 8 3	1,6 5 7	0

表 2. 抗菌剤・抗生物質検査内訳

	検 体	項 目	ス ル フ ア モ ノ メ ト キ シ ン	ス ル フ ア ジ メ ト キ シ ン	ス ル フ ア キ ノ キ サ リ ン	ス ル フ ア ジ ミ ジ ン	ス ル フ ア メ ラ ジ ン	フ ラ ゾ リ ド ン	オ キ ソ リ ン 酸	ナ リ ジ ク ス 酸	ピ ロ ミ ド 酸	カ ル バ ド ク ス	ナ イ カ ル バ ジ ン	ク ロ ピ ド ー ル	オ キ シ テ ト ラ サイ ク リ ン	ク ロ ル テ ト ラ サイ ク リ ン	抗 生 物 質			
																	テ ト ラ サイ ク リ ン 系	ペ ニ シ リ ン 系	ア ミ ノ グ リ コ シ ド 系	マ ク ロ ラ イ ド 系
合 計	95	482	42	39	17	29	17	10	49	15	5	10					83	83	83	
鶏 肉																				
は ち み つ	2	14	2	2		2			2								2	2	2	
養 殖 魚	タ イ	1	3														1	1	1	
	マ ダ イ	1	3														1	1	1	
	ハ マ チ	2	10	2					2								2	2	2	
	ニ ジ マ ス	4	28	4	4				4	4							4	4	4	
	ブ リ	2	12	2	1				2	1							2	2	2	
	ヤ マ メ	1	7	1	1				1	1							1	1	1	
	ア ユ	4	28	4	4				4	4							4	4	4	
	エ ビ	2	8						2								2	2	2	
食 肉	牛 肉																			
	牛 脂	7	21														7	7	7	
	豚 肉	17	67	2	2	2	2	2	2			2					17	17	17	
	豚・腎臓	22	101	7	7	7	7	7	7			7					15	15	15	
	豚 脂	7	21														7	7	7	
	鶏 肉	8	72	8	8	8	8	8	8								8	8	8	
	牛 肉	14	78	9	9		9		14	5	5						9	9	9	
	豚 肉																			
肉 輸 入	鶏 肉	1	9	1	1		1		1	1		1					1	1	1	

表3. 自然毒検査内訳

検 査 対 象	検 体 数	項 目 数
貝毒 ^{*1}	5	10
魚毒 ^{*2}	10	10
カビ毒 ^{*3} (ナッツ, くずもち, 香辛料, 健康食品)	20	96
合 計	35	116

*1 麻痺性貝毒, 下痢性貝毒

*2 テトロドトキシン

*3 アフラトキシンB₁, B₂, G₁, G₂,
オクラトキシン, ステリグマトシスチン

(2) 水質検査部門

ア. 飲料水検査

本年度に実施した一般飲料水の飲料適否総検査件数は, 1,476件で, うち331件(22.4%)が飲料不適であった。総検査件数は, 1,476件で, 前年度の1,834件より358件(19.5%)減少した。その検査結果を表1に示した。

内訳は, 貯槽水が21.2%増, 井戸水, 船舶水, 簡易専用水道水, 専用水道水が, それぞれ, 20.6%, 64.6%, 61.1%, 3.8%減であった。不適率については, 井戸水, 船舶水および簡易専用水道が減少し, 貯槽水及び専用水道水が増加した。なお, 水道直結栓水については, 今年度から検査を開始したものである。

飲料水検査件数の減少は, 市内からの検査依頼の増加に応ずるために, これまで市外からの依頼が総検査件数の30~50%ほどあったものを, 本年度8月以降, それぞれ所管する自治体の研究所または民間の検査機関に依頼するように指導し, 代わって, 市内の貯槽水の検査の拡充, 新たに水道直結栓水の検査およびクリーニング排水検査の計画的受付等を開始したためである。

表1. 一般飲料水検査結果

() 前年度

種 類		井戸水	貯槽水	船舶水	簡 易 専 用 水道水	専 用 水道水	水 道 直 結 水	計
検 査 件 数		332 (418)	810 (668)	231 (652)	7 (18)	75 (78)	21 (0)	1,476 (1,834)
種 類 比 率 (%)		22.5 (22.8)	54.9 (36.4)	15.6 (35.6)	0.5 (1.0)	5.1 (4.2)	1.4 (0.0)	100.0 (100.0)
不 適 件 数		182 (234)	77 (44)	66 (190)	0 (2)	3 (0)	3 (0)	331 (470)
不 適 率 (%)		54.8 (56.0)	9.5 (6.6)	28.6 (29.1)	0.0 (11.1)	4.0 (0.0)	14.3 (0.0)	22.4 (25.6)
不 適 項 目 件 数	外 観	34 (36)	18 (9)	13 (37)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	65 (83)
	臭 気	19 (30)	9 (5)	4 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	32 (39)
	pH	1 (0)	5 (1)	3 (7)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	10 (8)
	硝酸性窒素および 亜硝酸性窒素	24 (30)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (30)
	塩 素 イ オ ン	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)
	過マンガン酸 カリウム消費量	5 (3)	2 (2)	2 (16)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	10 (21)
	鉄	25 (29)	20 (12)	9 (43)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	54 (85)
	マ ン ガ ン	8 (11)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (11)
	亜 鉛	3 (1)	2 (0)	1 (19)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (20)
	総 硬 度	4 (3)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (3)
	蒸 発 残 留 物	1 (3)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (3)
	一 般 細 菌	79 (126)	41 (31)	51 (138)	0 (1)	3 (0)	2 (0)	176 (296)
	大 腸 菌 群	125 (169)	18 (11)	16 (21)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	160 (201)
	トリクロロエチレン	2 (7)	—	—	—	—	—	2 (7)
	テトラクロロ エチレン	1 (4)	—	—	—	—	—	1 (4)
	1,1,1- トリクロロエタン	0 (0)	—	—	—	—	—	0 (0)

イ. 排水水、環境水等の検査

「水質汚濁防止法」，「海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律」，「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の規定に基づく排水水、環境水、底質、汚泥等の検査及び水に係る衛生的調査等の依頼を受け、それぞれの目的に応じた試験を行っている。

種類別検査件数を表 2 に示す。

表 2. 排水水、環境水等の検査件数 () 前年度

種 類	検 査 件 数	備 考
排 出 水	263 (146)	事 業 所 クリーニング排水等
環 境 水	20 (9)	海 域 ・ 河 川
底 質	42 (14)	川崎港内・運河
汚 泥	5 (6)	産 業 廃 棄 物
プール・浴槽水	109 (159)	水 質 基 準 判 定
計	439 (329)	

ウ. クリーニング排水検査

前記イの排水水検査の内、238 件は、クリーニング排水中の有機塩素化合物のテトラクロロエチレン等の検査で、今年度から通常業務として受け入れを開始した。水質汚濁防止法の水質基準等の適否判定と事業所指導のために、保健所においてとりまとめ、事業者自らの責任で検査するものである。その検査結果を表 3 に示した。

表 3. クリーニング排水検査結果

種 類	検 査 件 数	基準等不適合件数	基準等不適合率%
テトラクロロエチレン	199	42	21.1
1,1,1-トリクロロエタン	39	8	20.5
合 計	238	50	21.0

エ. 当研究所の下水水質測定

下水道法に基づき当所から排除された下水の水質検査を毎月 1 回実施している。本年度の結果を表 4 に示す。なお、フェノール類、シアン、六価クロムの各項目については、すべて不検出であった。1 日平均の排水量は、34.5 m³ であった。

表 4. 最終下水水質測定結果

項 目	pH	溶解性鉄 mg/ℓ	溶解性マンガン mg/ℓ	フェノール類 mg/ℓ	シ ア ン mg/ℓ	六価クロム mg/ℓ
平 均 値	7.1	0.03	0.01	不検出	不検出	不検出
範 囲	7.0～7.3	0.01～0.19	0.00～0.11	—	—	—

(3) 環境検査部門

ア. 建築物の環境検査

「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」（ビル衛生管理法）に基づく公共施設 3カ所を測定したところ、68測定点のうち、浮遊粉じん量は4地点、相対湿度は15地点で管理基準値以上であった。

一方、公共施設 6カ所の煙道中ばいじん量 6、硫黄酸化物 3および窒素酸化物 5を測定したが、いずれも基準値以下であった。

イ. 家庭用品の試験検査

「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」における規制項目 17物質のうち、15物質について試験を行った。試験内容を表 1 に、ホルムアルデヒドの試験結果を表 2 に示した。

ウ. 貸おしぼり、貸シタオル等の検査

貸おしぼり 31 検体について、PH・変色および異物の検査を行った。PH値は、6.8～8.4であった。

異臭については、認められなかったが、変色については、黄ばみの変色 1 検体、異物については、19 検体に毛髪・まつ毛・ゴミ等の混入をみとめた。

エ. 市内販魚類中の PCB 検査

市内スーパー等で市販されていた魚類 15 検体についての検査結果は、表 3 に示すとおりである。このうち 8 検体に PCB が検出されたが、暫定的規制値を超えたものはなかった。

オ. 市内販魚類中の各種有害元素検査

市内スーパー等で市販されていた魚類 15 検体について検査を行った。暫定的規制値のある総水銀の検査結果は、表 4 に示すとおりである。内海内湾魚は、nd～0.05 ppm、遠洋沖合魚は、0.01～0.04 ppm の検出範囲であり、暫定的規制値を越えたものはなかった。

また、各種有害元素の検査結果は、表 5 に示すとおりである。

カ. 多摩川および川崎港で採取した魚類の検査

多摩川のふっこ、ふな、はぜ、せいご等 4 検体、川崎港のあいなめ、かさご、きす、べら等 6 検体について、PCB、各種有害元素、n-パラフィン系炭化水素、B(a)P、クロルデン類等の検査を行った。

その検査結果は、表 6、表 7、表 8、表 9、表 10、表 11 に示すとおりである。

キ. 残留農薬検査

市内産の青果物 24 検体、煎茶 5 検体、小麦 2 検体、学校給食用に搬入された果実 2 検体およ

び牛乳4検体について検査を行った。その検査結果は、表12、表13に示すとおりであり、すべて基準値以内であった。また、規制値のない市内産キウイフルーツ3検体の検査結果は、表12に示すとおりである。

併せて、最近、ポスト・ハーベスト農薬等として輸入レモン等に使用されていると指摘されている2,4-PA・ナトリウム塩(2,4-D)、ジクロロボス、ペノミル、チオファネートメチルにつき、レモン4検体、オレンジ、グレープフルーツ、バナナ、キウイフルーツ各1検体について検査を行った。その検査結果は、表14に示すとおりである。

また、輸入食肉・国産食肉各10検体について検査を行った。

その検査結果は、表15に示すとおりである。

ク. 健康食品検査

健康食品として販売されている24検体のうちから、PCB、各種有害元素、残留農薬について検査を行った。その検査結果は、表16、表17に示すとおりである。

ケ. カドミウム検査

市内産玄米38検体について、カドミウムおよびカドミウム化合物の検査を行った。その検査結果は、表18に示すとおりであり、カドミウムとしてnd~0.15ppmの範囲であった。

コ. 市内流通食品中の放射能検査

市内に流通している輸入食品29検体について、セシウム134・セシウム137の2核種につき検査を行った。その検査結果は、表19-1、表19-2に示すとおりである。

併せて、調査研究の一環として市内流通食品中のうち、輸入食品(9検体)・国内産食品(8検体)・不明食品(6検体)について検査を行った。

その検査結果は、表20-1、表20-2に示すとおりである。

サ. 清涼飲料水の規格試験

清涼飲料水11検体について検査した検査結果は、すべて適合であった。

表 1. 家庭用品試買試験検査状況

検 査 項 目	対象家庭用品	検 体 数	不 適 数
ホルムアルデヒド	織 維 製 品	1 6 6	1
塩 化 水 素 ・ 硫 酸	住 宅 用 洗 淨 剤	5	0
塩 化 ビ ニ ー ル	家庭用エアゾル製品	0	0
有 機 水 銀 化 合 物	織 維 製 品	1 5	0
デ ィ ル ド リ ン	織 維 製 品	9	0
D T T B	織 維 製 品	9	0
トリフェニルスズ 化合物	織 維 製 品 家庭用ワックス	2 1	0
トリブチルスズ 化合物	織 維 製 品 家庭用ワックス	2 1	0
水酸化カリウム・ 水酸化ナトリウム	住 宅 用 洗 淨 剤	1 1	0
B D B P P	織 維 製 品	9	0
T D B P P	織 維 製 品	9	0
メ タ ノ ー ル	家庭用エアゾル製品	2 4	0
テトラクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	2 9	0
トリクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	2 9	0
A P O	防 炎 加 工 剤	0	0
総 計		3 5 7	1

表 2. ホルムアルデヒド検査結果

検 体 名			検体数	検 出 範 囲	平均値
織 維 製 品	生後24月以内の 乳幼児用のもの	よだれ掛け	2	0.008 ~ 0.009	0.009
		下 着	10	0.006 ~ 0.035	0.014
		中 衣	6	nd ~ 0.024	0.011
		外 衣	80	nd ~ 0.035	0.011
		おむつカバー	1	nd	nd
		帽 子	12	nd ~ 0.024	0.013
		寝 衣	3	nd ~ 0.016	0.010
		寝 具	7	nd ~ 0.012	0.002
	上記以外のもの	下 着	25	nd ~ 16.1	4.5
		寝 衣	16	nd ~ 113.8	16.7
		そ の 他	4	nd ~ 6.8	1.7

* 生後24月以内の乳幼児用のものはA-Aoの吸光度値 * nd : 0.005未満

* 生後24月以外のものは $\mu\text{g/g}$ * nd : $4.2 \mu\text{g/g}$ 未満

表 3. 市内販魚類中のP C B検査結果

単位: ppm

検 体 名			検体数	検出数	検 出 範 囲	暫定的規制値
魚	内海内湾	あ じ	4	2	nd ~ 0.02	3
		そ の 他	4	2	nd ~ 0.02	
類	遠洋沖合	い わ し	3	2	nd ~ 0.10	0.5
		さ ん ま	2	2	0.03 ~ 0.04	
		そ の 他	2	0	nd	

* nd : 0.01未満

表 4. 市内販魚類中の総水銀の検査結果

単位: ppm

検 体 名		検体数	検出数	検 出 範 囲	暫定的規制値
内内 海湾	あ　　じ	4	3	nd ~ 0.04	総水銀 0.4
	そ　　他	4	4	0.02 ~ 0.05	
遠 洋 沖 合	い　わ　し	3	3	0.01 ~ 0.03	メチル 水銀 0.3 (水銀として)
	さ　　ん　　ま	2	2	0.03 ~ 0.04	
	そ　　他	2	2	0.01 ~ 0.04	

備考: 但し, マグロ類及び内水面水域の河川産の魚介類(湖沼産の魚介類は, 含まない)並びに,
深海性魚介類については適用しない。

* nd: 0.01未満

表 5. 市内販魚類中の各種有害元素の検査結果

単位: ppm

検 体 名	検体数	銅	鉛	カドミウム	マンガン	クロム	亜鉛	ヒ素
内 湾	あ　　じ	0.27 ~ 1.00	nd	nd	nd ~ 0.12	nd ~ 0.01	2.12 ~ 3.24	0.38 ~ 3.20
	その他	0.15 ~ 1.37	nd ~ 0.01	nd	0.06 ~ 0.75	nd	2.00 ~ 3.54	nd ~ 1.57
遠 洋 沖 合	いわし	0.89 ~ 1.24	nd	nd	0.47 ~ 0.93	nd	3.48 ~ 4.37	2.10 ~ 3.00
	さんま	0.70 ~ 1.00	nd	nd	nd ~ 0.42	nd	3.17 ~ 3.37	1.66 ~ 3.30
	その他	0.21 ~ 0.49	nd	nd	nd ~ 0.07	nd	1.70 ~ 2.74	0.44 ~ 0.47

* nd: 0.01未満

表 6. 多摩川の魚類中のPCB及び各種有害元素の検査結果

単位: ppm

検査項目	PCB	総水銀	銅	鉛	カドミウム	マンガン	クロム	亜鉛	ヒ素
検 体 数	4	4	4	4	4	4	4	4	4
魚 介 類	範囲 0.02 ~ 0.20	0.01 ~ 0.11	0.12 ~ 0.50	nd	nd	0.03 ~ 1.30	nd	4.56 ~ 12.10	nd ~ 1.06

* nd: 0.01未満

表 7. 川崎港の魚類中の PCB 及び各種有害元素の検査結果

単位: ppm

検査項目	PCB	総水銀	銅	鉛	カドミウム	マンガン	クロム	亜鉛	ヒ素
検体数	6	6	6	6	6	6	6	6	6
魚介類 範囲	0.06 ~ 0.10	0.02 ~ 0.04	0.14 ~ 0.20	nd	nd	0.13 ~ 0.91	nd	2.98 ~ 9.22	0.42 ~ 0.87

* nd: 0.01未満

表 8. 多摩川の魚類中の n-パラフィン系炭化水素等の検査結果

検査項目	n-ペンタデカン	n-ヘプタデカン	n-ノナデカン	ベンゾ(a)ピレン
検体数	4	4	4	4
範囲	nd	nd	nd	nd

* 単位: n-パラフィン系炭化水素 ppm
ベンゾ(a)ピレン ppb

* nd: 0.1未満

表 9. 川崎港の魚類中の n-パラフィン系炭化水素等の検査結果

検査項目	n-ペンタデカン	n-ヘプタデカン	n-ノナデカン	ベンゾ(a)ピレン
検体数	6	6	6	6
範囲	nd	nd	nd	nd

* 単位: n-パラフィン系炭化水素 ppm
ベンゾ(a)ピレン ppb

* nd: 0.1未満

表 10. 多摩川の魚類中のクロルデン類の検査結果

単位: ppm

検査項目	ヘプタクロル	ヘプタクロル エポキシド	trans- クロルデン	cis- クロルデン	trans- ノナクロル	オキシクロ ルデン
検体数	4	6	4	4	4	4
範囲	nd ~ 0.001	nd	nd	0.002 ~ 0.010	0.005 ~ 0.021	nd ~ 0.003

* nd: 0.001未満

表 11. 川崎港の魚類中のクロルデン類の検査結果

単位: ppm

検査項目	ヘプタクロル	ヘプタクロル エポキシド	trans- クロルデン	cis- クロルデン	trans- ノナクロル	オキシクロ ルデン
検体数	6	6	6	6	6	6
範囲	nd	nd	nd	0.001 ~ 0.002	nd ~ 0.005	nd

* nd: 0.001未満

表 12. 青 果 物 等

農 薬 名 検 体 数 検 体 名		ヒ素およびその化合物 *1	鉛およびその化合物 *2	有 機 塩 素 剤								
				総 B H C	総 D D T	エン ド リ ン	カ プ タ ホ ー ル	キ ャ プ タ ン	クロルベンジレート	ジ コ ホ ー ル	デ イ ル ド リ ン	ア ル ド リ ン
キ ャ ベ ツ	3	—	—	nd ~ 0.002	nd	nd	nd	—	—	—	nd	nd
き ゅ う り	3	nd	nd	nd ~ 0.001	nd	nd	—	nd	—	nd	nd	nd
ト マ ト	3	nd	nd	nd	nd	nd	—	nd	—	—	nd	nd
こ ま つ な	2	—	—	nd	nd	nd	—	—	—	—	nd	nd
ほうれんそう	2	nd	nd	nd ~ 0.002	nd	nd	—	—	—	—	nd	nd
ば れ い し ょ	3	nd	nd	nd	nd	nd	—	—	—	—	nd	nd
日 本 な し	5	nd	nd	nd ~ 0.001	nd	nd	nd	—	nd	nd ~ 0.002	nd	nd
み かん (果肉)	1	—	—	nd	nd	—	—	—	—	—	nd	nd
み かん (外皮)	1	—	—	nd	nd	—	—	—	—	—	nd	nd
煎 茶	5	—	—	nd	nd	nd	—	—	—	nd	nd	nd
小 麦 ^{*3}	1	—	—	nd	nd	nd	—	—	—	—	nd	nd
小 麦 粉 ^{*3}	1	—	—	nd	nd	nd	—	—	—	—	nd	nd
キウイフルーツ	3	—	—	nd	nd	nd	nd	—	nd	nd	nd	nd

*1: As₂O₃として, *2: Pbとして, *3: nd—0.01未満, *nd (砒素・鉛・カルバリ

中の残留農薬検査結果

単位: ppm

有 機 リ ン 剤											カルバメート	有機スズ剤	殺菌剤	殺虫剤
E	クロルピリホス	クロルフェンヒンボス	ジクロルボス	ジメトエート	ダイアジノン	パラチオン	フェニトロチオン	フェンチオン	フェントエート	マラチオン	カルバリル	トリシクロヘキシルスズ	クロロタロニル	臭素
P														
N														
nd	—	nd	—	—	nd	nd	—	—	—	nd	nd	—	— nd	—
nd	—	—	—	—	nd	nd	nd	—	—	nd	—	—	— nd	—
nd	—	—	—	nd	nd	nd	nd	—	—	nd	—	—	— nd	—
—	—	—	—	—	—	nd	—	—	—	nd	—	—	— —	—
nd	—	—	nd	—	nd	nd	nd	—	—	nd	nd	—	— —	—
nd	—	nd	—	nd	nd	nd	—	nd	—	nd	nd	—	— nd	—
nd	nd	nd	nd	—	nd	nd	nd	—	nd	nd	nd	nd	— —	—
—	—	—	—	—	nd	—	—	—	—	nd	—	—	— —	—
—	—	—	—	—	nd	—	—	—	—	nd	—	—	— —	—
nd	—	—	—	—	nd	nd	nd	—	—	—	nd	—	— —	—
—	—	—	—	—	—	nd	nd	—	—	0.12	—	—	— —	nd
—	—	—	—	—	—	nd	nd	—	—	nd	—	—	— —	nd
nd	nd	nd	nd	—	nd	nd	nd	—	nd	nd	—	—	nd —	—

ル・ベノミル) : 0.01 未満, nd (その他の項目) : 0.001 未満

表 13. 牛乳中の残留農薬検査結果

単位：ppm

検査項目	β -BHC	DDT	DDD	DDE	アルドリン	デルドリ
検体数	4	4	4	4	4	4
範 囲	nd	nd	nd	nd	nd	nd

* nd : 0.001未満

表 14. 輸入果実中の残留農薬検査結果

単位：ppm

果実名 (薬 剤)	2,4-D (除草剤)	ジクロロボス (殺虫剤)	ベノミル (殺菌剤)	チオファネートメチル (殺菌剤)
レ モ ン	0.06	nd	nd	—
オ レ ン ジ	nd	nd	nd	—
グレープフルーツ	nd	nd	nd	—
バ ナ ナ	—	—	nd	nd
キウイフルーツ	—	nd	—	—

* nd : 0.01未満

表 15. 食肉中の残留農薬検査結果

単位：ppm/脂肪中

検体名	検 数	BHC	DDT	エンドリン	デイル ドリン	アルドリン	パラチオン	ヘプタ クロル	ヘプタク ロルエポ キシサイド
輸 入 食 肉	10	—	nd	—	nd	nd	—	nd	nd
国 産 食 肉	10	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd

* nd : 0.05未満

表16. 健康食品中のPCBおよび各種有害元素の検査結果

単位：ppm

検査項目	PCB	ヒ素	鉛	鉄	亜鉛	カドミウム
検体数	7	17	17	1	3	1
範囲	nd ~ 0.03	nd ~ 22.74	nd ~ 0.92	120.57	102.73 ~ 308.91	nd

* nd : 0.01未満

表17. 健康食品中の残留農薬の検査結果

単位：ppm

検査項目	BHC	DDT	エンドリン	デルドリン	アルドリン	ジコホール	EPN
検体数	24	24	23	23	23	5	5
範囲	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
検査項目	ダイア ジノン	パラチオン	フェントロ チオン	馬拉チオン	カルバリル	ヘプタクロル	ヘプタクロル エポキシサイド
検体数	5	17	7	3	5	2	2
範囲	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd

* nd : 0.01未満

表18. 玄米中のカドミウム検査結果

単位：ppm

範囲	検体数	nd	0.01 ~ 0.05	0.06 ~ 0.10	0.11 ~ 0.15	0.16 ~ 0.20	0.21 ~
検出数	38	11	21	3	3	0	0

* nd : 0.01未満

表19-1. 輸入食品中の放射能の検査結果

(単位: Bq/Kg)

食 品 名 (輸 出 国) 提出年月日		セシウム134	セシウム137	セシウム134+137
輸 入 品	ソーセージ (西ドイツ) 1991. 5. 28	0.1 未満	0.1 未満	0.1
	クリスピーブレッド (ノルウェー) 1991. 5. 28	0.7	7.5	8.2
	マロンクリーム (缶詰) (フランス) 1991. 5. 28	0.1 未満	0.3	0.3
	塩漬ワラビ (中国) 1991. 6. 3	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	塩水漬マッシュルーム (中国) 1991. 6. 3	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	粉チーズ (不明) 1991. 6. 21	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	スパゲティ (不明) 1991. 6. 24	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	チーズホール (オランダ) 1991. 8. 02	0.1 未満	0.1 未満	0.1
	トーゲンバーガー (スイス) 1991. 8. 02	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	アスパラガス・水煮 (オランダ) 1991. 8. 02	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	エスカルゴ・水煮 (缶詰) (フランス) 1991. 8. 02	0.2	0.4	0.6
	ビール (オランダ) 1991. 9. 20	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	にしん薫製・油漬 (缶詰) (西ドイツ) 1991. 9. 20	0.1 未満	0.6	0.7
	ジエコホワイトアスパラ (オランダ) 1991. 9. 20	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	ピクルス (ドイツ) 1991. 9. 20	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満

備考: 放射能濃度は, 試料提出年月日の生重量に換算してある。

表 19-2. 輸入食品中の放射能の検査結果

(単位: Bq/Kg)

食 品 名 (輸 出 国) 提出年月日		セシウム134	セシウム137	セシウム134+137
輸 入 品	ウ オ ッ カ (U S S R) 1991. 9. 20	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	クリームチーズ (ド イ ツ) 1991. 9. 20	0.1 未満	0.2	0.2
	ナチュラルチーズ (デンマーク) 1991. 9. 20	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	にしん (缶詰) (西ドイ ツ) 1991. 11. 28	0.1 未満	1.7	1.8
	野 菜 酢 漬 (ド イ ツ) 1991. 11. 28	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	イチゴジャ ム (イギ リ ス) 1991. 11. 28	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	ピーナッツバター (オ ラ ン ダ) 1991. 11. 28	0.1 未満	0.2	0.3
	ナチュラルチーズ (西ドイ ツ) 1991. 11. 28	0.1 未満	0.1	0.1
	黄 桃 (缶詰) (ア メ リ カ) 1991. 12. 16	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	冷凍グリーンピース (不 明) 1991. 12. 16	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	小 麦 (不 明) 1992. 2. 6	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	小 麦 粉 (不 明) 1992. 2. 6	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	スライスチーズ (不 明) 1992. 3. 5	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	冷凍ホールコーン (不 明) 1992. 3. 13	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満

備考: 放射能濃度は, 試料提出年月日の生重量に換算してある。

表20-1. 市内流通食品中の放射能の検査結果

(単位: Bq/Kg)

食 品 名 (生 産 地) 購入年月日		セシウム134	セシウム137	セシウム134+137
食	生しいたけ (川 崎 市) 1991. 4. 8	0.1 未満	0.3	0.3
	乾燥しいたけ (静 岡 県) 1991. 9. 5	0.3	26.3	26.6
	ヌードル (イ タ リ ア) 1991. 9. 5	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	まいたけ (北 朝 鮮) 1991. 9. 5	0.1 未満	1.0	1.0
	クッキー (不 明) 1991. 9. 5	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	粉ミルク(調整粉乳) (日 本) 1991. 9. 5	0.1 未満	0.3	0.3
	アイスクリーム (不 明) 1991. 9. 5	0.1 未満	0.3	0.4
品	まいたけ (新 潟 県) 1991. 11. 18	0.1 未満	1.2	1.2
	ラザニア (イ タ リ ア) 1991. 11. 18	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	タコシエル (ア メ リ カ) 1991. 11. 18	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	スキムミルク (不 明) 1991. 11. 18	0.2	0.3	0.5
	クリープ (不 明) 1991. 11. 18	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	ビスケット (オ ラ ン ダ) 1991. 11. 18	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満

備考: 放射能濃度は, 試料購入年月日の生重量に換算してある。

表 20-2. 市内流通食品中の放射能の検査結果

(単位: Bq/Kg)

食 品 名 (生 産 地) 購入年月日		セシウム134	セシウム137	セシウム134+137
食 品	スイートポテト (ベビーフード) (ア メ リ カ) 1991. 12. 16	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	ヒラメのホワイトソース煮 (ベビーフード) (不 明) 1991. 12. 16	0.1 未満	0.2	0.2
	歯がためビスケット (ア メ リ カ) 1991. 12. 16	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	ヒシコのオイル漬 (ポルトガル) 1991. 12. 16	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	アイスチョコレート (オ ラ ン ダ) 1991. 12. 16	0.1	0.1 未満	0.2
	ラカンカエキス (不 明) 1991. 12. 16	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
	調 整 粉 乳 (日 本) 1991. 12. 16	0.1 未満	0.1	0.1
	調 整 粉 乳 (日 本) 1991. 12. 16	0.1 未満	0.7	0.7
	調 整 粉 乳 (日 本) 1991. 12. 16	0.1 未満	0.4	0.5
	調 整 粉 乳 (日 本) 1991. 12. 16	0.1 未満	0.1	0.2

備考: 放射能濃度は, 試料購入年月日の生重量に換算してある。